

# iPhoneでできる 高音質／高解像度の映像撮影



演奏上達の秘訣は、自分たちの演奏を客観的に見て知ることです。そのためにはビデオで撮ってみるのが一番でしょう。また昨今では都道府県大会などの予選審査として、演奏動画が求められるケースも増えてきています。そこで今回は、iPhoneを使い、できるだけ簡単に、かつ良い音で演奏動画を撮影する方法を紹介します。

協力：加藤学園高等学校 フォークソング部

## 演奏は映像に残そう

日常のちょっとした風景や面白い現象を記録するために、iPhoneのカメラ機能を使っている人は多いでしょう。軽音楽部の活動では、ライブの風景を動画として残しているケースも多いと思いますが、普段のバンド練習風景などを「撮影」している学校は、まだ少ないのではないのでしょうか。

冒頭でも紹介した通り、楽器の演奏技術を磨く上で自分の演奏を客観的に聴くことはとても大切です。というのも、演奏中は自分が演奏するのに夢中だったり、大きな音を鳴らすこと自体に気持ち良くなってしまい、自分がどんな演奏をしているのか、そしてバンド全体がどのようなアンサンブルを奏でているのかを冷静に見るのは、意外と難しいもの。つつい「弾けているつもり」になってしまいがちです。

それを防ぐ一番簡単な方法は、演奏風景を動画として撮って見ることです。音声だけでも良いのですが、きれいな画質で撮影ができるiPhoneで映像で撮ってみましょう。音だけではなく、弾いているフォームや姿勢も確認できるので、プレイ

中の自分が観客からどんなふうに見えるのか客観的に見ることが出来ます。また、日常的に撮影を繰り返していくことで、成長の記録を残すことができます。「先月よりもうまくなった!」ということが自分で実感できれば、練習のやりがいにもつながります。

## 都道府県大会に挑戦しよう

最近では、都道府県大会で音源や演奏動画審査が行われることも増えてきているので、普段から動画を撮ることに慣れておくことで余裕を持って取り組むことができます。

この時に大切なのは、動画のクオリティーよりも演奏や大会に向き合う姿勢です。レコーディングや動画撮影というと、高価な機材や専門知識がないと良いものは作れない…そんなイメージを持ってしまいがちですが、決してそんなことはありません。予算がなくても、手の届く機材とちょっとしたアイデアや工夫で十分良い作品を作ることができるはずですよ。

何よりも、そういった本気の姿勢で取り組み、普段の練習や演奏も変わり、それは必ず結

果にも結びつくでしょう。

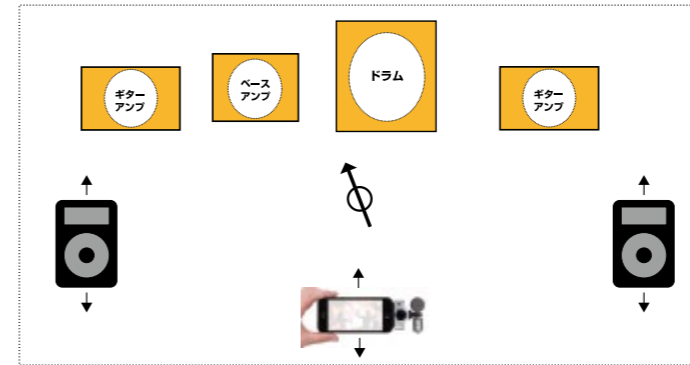
## 課題はマイクにある

iPhoneで動画を撮ることは、誰でもすぐできると思いますが、いざ演奏を撮ってみると「あれっ?」と気付くはず。iPhoneのカメラは高性能で、映像はとてもきれいに撮れるのですが、問題は「音声」です。iPhoneで録った音声は音が割れ、多くの場合ドラムが大きくてボーカルが聴こえない…という状態になっています。これは市販のビデオ・カメラを使う場合でも同じです。音楽の主演はあくまで「音」なので、その音の本来の魅力を伝えられないのはもったいないですよ。こんな状態では、演奏の細かい部分までチェックするのは難しくなってしまいます。何より少しでも良い状態で聴きたいですよね。

音割れなどの原因は、マイクの性能に対してバンド演奏の音が大きすぎることです。そもそもiPhoneやビデオ・カメラのマイクは爆音のバンド演奏を録音することを想定していないため、これは仕方ないことなのです。逆に言えば、マイクの問題さえ解決すれば、iPhoneでも音割



▲この3点のセットは軽音協ショップで販売中ですので、ぜひチェックしてください [www.keionkyo.shop](http://www.keionkyo.shop)



◀楽器ごとの音量調整ができたなら、PAスピーカーやマイク(iPhone)の位置を前後に動かして、ボーカルがしっかりと聴こえる位置を探っていきましょう

れない演奏動画を撮影できるということです。ここでは、ZOOMのiOSデバイス用マイク「iQ7」を使っていきます。iOS用のマイクはいろいろな販売されていますが、音楽を撮る場合は楽器メーカーの製品を選ぶのが安心です。

## マイク・スタンドに設置する

これで音割れの問題は解決できましたが、ただ撮っただけでは各パートのバランスは悪いまま。ドラムばかり大きく聴こえてボーカルは聴こえない…なんて具合になっていることでしょう。次にこれを改善していきます。

まずは位置を調整したり、セッティングしやすくするために、スタンドに固定しましょう。スマートフォン用のスタンドも販売されていますが、意外と高価です。そこで考えたのが「スマートフォン・ホルダー」と「変換ネジ」を組み合わせることで、iPhoneをマイク・スタンドに設置する方法です。

部屋にカメラ用の三脚がある場合は、変換ネジは不要ですが、マイク・スタンドの方が高さや位置の微調節もしやすく、何より部屋に必ず設置されていると思いますので、こちらを使うのが良いでしょう。

## すべてはバランスだ!

iQ7の場合、1台(2本)のマイクで録音しているので、録音後に各楽器の音量バランスを個別に調整することはできません。そのため、収録時に音楽的にバランスの良い音量レベルで演奏することが必要になります。ここで言う「バランスが良い」とは、ライブPAのようにその場でどう聴こえているかよりも「実際に録音される音がどうか」を意識する必要があります。

これに関しては明確な正解があるわけではないので、演奏し、録音結果を確認し、それを反映してまた録音…という試行錯誤を繰り返さなくてはなりません。いくつかコツを紹介します。

ボーカルがドラムやアンプの音に埋もれてしまい、聴こえにくいというケースが多いと思いますが、これはボーカルが小さい、またはその他の楽器が大きすぎるのが原因です。

ボーカルの音量を基準に、他の楽器の音量を調整していきます。まずはPAでボーカルを適切なレベルで鳴らし、そこに合わせてドラムを追加。最後にギターやベースの音量を合わせていくようにすると良いでしょう。どうしてもボーカルが小さくなってしまえば、レコーダーとPAスピーカーの位置を近づけると、それだけPA(ボーカル)の音量が大きくなります。ドラムは音量調節が難しいと思うので、もし音量が大きすぎると感じたら、いつもより力を抜き気味に叩くような工夫が必要かもしれません。場合によっては、メンバーよりもPAスピーカーを前に出すのも有効ですが、距離が離れすぎると、自分たちの音が聴こえにくくなったり、部屋の特性によって音の輪郭がぼやけていくので、これらを総合的に判断しながら位置を探っていきましょう。



▲目的に合った機材の選定とアイデアを組み合わせることで、十分にクオリティーの高い演奏動画を撮影することができます

レコーダーの位置が離れた場合は、メンバーがイイ感じに画面に収まるようにカメラをズームさせればOK。メンバーの立ち位置は自由で、カメラに全員が写っていれば大丈夫。ただし、ボーカルはステレオの中央から聴こえて欲しいので、スピーカーの位置に対して、常にレコーダーが中央になるようにセッティングすると聴きやすいサウンドに仕上がります。

1本のマイクで録る場合は、各楽器の音量はもちろん、位置や距離を工夫するのが大切です。最初は時間が掛かると思いますが、何度かテストすればコツが掴めるはずですよ。

また、せっかくステレオで録音できるので、楽器の配置にも工夫してみましょう。ボーカルやドラムは中央に、ギターやキーボードは左右に配置することで、広がりのあるサウンドになり、1つ1つの楽器の音も聴きやすくなるはずですよ。

## 作品であるという意識

いろいろな制限がある中でクオリティーの高い動画を作ることは大変かもしれません。しかし、「作品として少しでも良いものを作りたい!」と意識したり工夫することで、バンドのレベルアップや演奏に対する取り組み方にも変化が起ることでしょう。高価な機材にこだわることなく、「作品を創る」「創意工夫する」ということこそが、軽音楽部の「部活動」としての意義ではないのでしょうか。

最後になりましたが、せっかく良い音で撮っても聴く環境によっては良さを発揮することができません。ビデオを見返すときには、iPhoneの内蔵スピーカーではなく、イヤフォンを使ってしっかりと細部まで聴くことを忘れないでください!



▲iOSデバイス用のマイクiQ7。Lightningコネクタを搭載したiPhoneやiPad Touch、iPadで使用できます



▲iPhoneを固定するためのスマートフォン・ホルダー(左)とマイク・スタンドに取り付けるための変換ネジ(右)